

## 平成 28 年度 第 2 回北区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	平成 28 年 12 月 15 日 (木) 午後 1 時 30 分から午後 2 時 50 分まで
会 場	北地区コミュニティセンター1 階 講座室 1
出席者	北区自治協議会委員(教育・文化部会) 6 名 教育委員: 沢野教育委員、佐藤教育委員 事務局: 教育総務課長、地域教育推進課長、教職員課管理主事、 学校支援課長補佐、豊栄地区公民館長、豊栄図書館長、 北区教育支援センター所長 他 4 名 北区役所: 地域課課長補佐 傍聴者: 0 名
議 事	1 開会 2 教育委員挨拶(佐藤教育委員、沢野教育委員) 3 事務局紹介 4 平成 28 年度全国学力・学習状況調査 新潟市の結果について(学校支援課) 5 事前質問への回答について(各課説明) (1) テーマ:「命の教育」～生きる力、支え合う力を育てる環境づくり～ (2) テーマ以外 6 情報提供(北区教育支援センター所長) ○ 日本の高校生の意識調査(平成 27 年 8 月国立青少年教育振興機構調査) ○ いじめ防止対策推進法改正案について ○ 北区の小中学校の現状・取組について ・北区小中学校授業改善研修会の実施 ・小学校の適正配置(太田小学校・笹山小学校・南浜小学校・豊栄南小学校) ・福島潟自然文化祭での 6 中学校による総踊り ・南浜中学校と岡方中学校による合同合唱コンクール ・岡方第一小学校の「全国川サミット阿賀野川」での発表 ・岡方第二小学校の高森神楽の神楽舞 ・南浜中学校生徒が短歌で文部科学大臣賞を受賞 ・早通中学校は、優れた防災教育と総踊りへの取組が評価され、文部科学大臣賞を受賞 ・南浜中学校は、毎日新聞社が主催する「ぼうさい甲子園」において優れた防災教育への取組みが評価され、「だいいじょうぶ賞」を受賞

7 意見交換(司会 北区教育支援センター所長)

自治協委員

7ページ、自転車のマナーについて。子どもたちの自転車の乗り方が非常に危なく、一人の際はともかくとして集団で乗っているときに飛び出してくるようなことが起きています。学校でも指導はしているとは思いますが、自転車を与える親御さんのほうはあまり意識が無いのではないかと。いつの時代も学校を經由して保護者に伝えていますが、例えば地域でも、それこそ学・社・民の融合というような時代になったわけですから、地域の中で家庭を巻き込んで子どもたちの交通マナーを改善していくような方法を検討してはいかがでしょうか。

葛塚中学校の子どもは登下校でヘルメットかぶっているのですが、小学生はほとんどかぶっていません。義務は無いのかもしれないけれど、例えばヘルメットをかぶる運動などを展開するようなことがあれば、ある程度、親御さんも関心を持ってくれるのではないかと思います。新潟市あるいは新潟県全体を見ても、ヘルメットを着用しているところはあまり無い。他県へ行くときけこう見るのですが、そういうところは行政のほうでどのように考えてらっしゃるのかと思っていたものですから、この質問を出させてもらいました。

教育支援センター所長

年度当初、葛塚東小学校で交通事故が連続して起こりました。先生方もいろいろ指導をしていて、その後75日間は事故がゼロでした。それは、先生方の指導が効いたのではないかと思います。

前のミーティングの時も言いましたが、区役所には交通指導員が非常勤で何人かいます。その交通指導員は年度初めに各学校へ行って交通指導をします。地域と一緒にやれたら良いと思っていましたので、ぜひ葛塚東小学校区コミ協などが見本、モデルとしてやっていただけたらと思います。

自治協委員

学校は本当に一生懸命やっていますが、見ていると保護者の方が案外気づいていないというか、気にしていないことがすごく気になっていました。

子どもたちがグループになると遊び感覚がどうしても出てきますから、危ないのではないかと思います。

教育支援センター所長

地域で自転車の乗り方とか交通指導などをやっているところはありますか。松浜地区で自転車の乗り方教室など実施していませんか。

自治協委員

毎年、春と秋に松浜小学校でやっています。青パトと交通指導隊、地域の交通指導員が出席していて、私も青パトで地域を回っていますので参加します。

濁川中学校区の名目所という地域の子どもたちは、自転車通学の際にはヘルメットをかぶっていますので、小学生もヘルメットをかぶった方が良いと思っています。

小学生のクラブ活動は、昔は学校で先生が担当していましたが、今は地域の人やっています。子どもたちは土日に部活(スポーツ団体等のクラブ活動)ということで学校へ行きますが、その際事故など何かあったときにだれが責任を取るのでしょうか。事故防止のためにも、学校側からヘルメットをきちんとかぶりなさい。という指導をしていただきたいと思っています。

小学生に教えている地域の人たちが、どこまで事故について分かっているかという点も一つの課題です。それを考えていくとやはり学校の

自治協委員	<p>授業、道徳などでそういった話をさせていただいたほうが、子どもたちとしては聞いてくれると思います。</p> <p>自転車のマナーについては学校でもいろいろやってくれています。これ以上学校にお願いするのもそれは大変だと思いますので、やはり自分たちの地域のことだし、家庭のこと、あるいはスポーツ団体のことなのだから、例えば交通安全協会とか、行政の担当課にお願いしていくなど、何でもかんでも学校でやればいいみたいな話になってくるのはいかがかと思います。</p>
教育委員会事務局	<p>部活動に限らず、土日だろうが学校に来るときには、学校の管理下になりますので、必ずヘルメットを着用しなさいと、中学生には徹底できていると思うのですが、小学生は、土日は、学校主体ではなく、スポーツ団体とか地域のスポーツ少年団が主体になってくるので、学校のほうで指導することは厳しいという気はします。</p>
自治協委員	<p>小学校の部活を10年くらい前みたいに先生がやってくれていれば別に何もこちらが言うことは無いのです。どこの学校も先生が忙しくてできないというからこういう形になったのです。中学校は先生が部活をやっています。中学校は部活をやれる先生がいて、小学校は部活をやれない先生ばかりなのではないでしょうか。</p>
教育委員	<p>10年前みたいに小学校の子どもが、野球部に100人もいるかいうと、今や20人いるかいないかですからね。それだったら十分学校の先生でもできると思います。私の子どもたちの頃は50人、60人いましたから、それは学校の先生一人じゃ無理ですよ。要は自転車うんぬんということばかりではないのです。</p> <p>前回の教育ミーティングの時にもこの自転車講習の話は出ていた記憶があります。</p> <p>行政のほうからこういう形でやりましょうという形も一つあると思いますが、民のほうからのお声がけで、小さなところから運動を広めていくというのも一つの方法だと思います。ぜひ担当小学校の保護者を集めて、勉強会の実施などを校長先生なり、もしくは地域と学校の間に入ってくださる地域教育コーディネーターの方にお話をもちかけて、こういうことしようじゃないかというお話をさせていただくとすごくいい形にまとまってくるのではないかと思います。</p>
教育支援センター所長	<p>今までコーディネーターさんのお仕事というのは、学校からの依頼で、講師やお手伝いをしてくださるボランティアを集めてください、ということで子ども中心の話だったのですけれども、今回も対象は子どもなのですが、保護者と取り組みを一緒にやって作りあげていただくというのではないかと思います。</p> <p>これも前回言いましたが、北区役所に交通指導員がいます。その交通指導員たちが保育園、小学校などへ行って、自転車の道路改正法やいろいろな注意点などを教えていますので、そこに自治協議会や地域が入ってくると良い取組ができるのではないかと思います。総務課の安心安全係が担当していますので相談してみてください。</p>
自治協委員	<p>5ページの学習、学力についてです。私の子どもは去年、中学3年生でしたのでアフタースクール事業に参加させてもらいました。とても良い事業で、希望する子どもがたくさんいました。ただ、残念ながら案内の中に、実施内容が基礎的なものなの</p>

か応用的なものなのか、一步踏み込んだ具体的な記載が無かったので、子どもたちもとまどいながらも参加したら、自分の思ったようなものではなかったという声があがっていました。

すごく素晴らしい事業だと思いますので、案内の際は実施内容を具体的に書いていただくと選択しやすくなります。中学校の保護者は小学校と違って、子どもから学校には来ないでくれと言われるので、学校に行く機会がないものですから、学校のことが分からない保護者の方が多いのです。紙一枚見てもなかなか把握できないという親御さんの意見もよく聞かれるので、具体的に書いていただけるともっといい成果が上がるのではないかと思います。

2ページにありましたいじめの把握の件数が3倍に上がったということでしたが、確かにコーディネーターをしていますと、保護者や子どもたちと話をすることがとても多くて、中学校でのいじめ問題では、先生が気付いてくれないという声を多くの親や子どもから聞きました。学校ではそういう話をきちんと把握しようとしているということはこの数字が表しているのかなと思います。これからの期待していますし、そういう問い合わせがあった場合には、私も地域や保護者の方に伝えていきたいと思います。

教育委員会  
事務局  
自治協委員

ありがとうございました。今ほどのアフタースクールについての案内を出す時には、分かりやすいように出すよう、各校に指導していきたいと思います。

6ページ地域教育コーディネーターとのかかわり方についてです。回答には、学校と地域が連携・協働するため「つなぐ」役割であることをご理解の上、と書いてありますけれども、まったく「つなぐ」役目などしていただいていません。というのは、私はコミュニティ協議会の代表をやっているのですけれども、要するにコーディネーターの方に対する自分の立場というのがきちんと分かってもらっていないような気がするのです。その辺はどのように指導しているのか教えていただきたい。

教育委員会  
事務局

コーディネーターの役割として、まず地域の中でのネットワークづくりをお願いしています。またそのネットワークによって結ばれた方からボランティアを組織して学校活動へ参画していただき、その役割を果たしてもらっています。さらに学校の情報を積極的に外に発信していただくよう繰り返し研修の中でも指導しています。

コミュニティ協議会さんとのつながり、ネットワークづくりは大事な一つととらえています。例えば、文書が行く、回覧が行くとか、お願いがあるといったことを私たちも想定していますが、まだそういうところが無いという状況なのでしょうか。

自治協委員

要するにかかわり、存在も分からないということです。こちらから要望して1回だけコミ協に来てもらって、顔と名前を見聞きしました。私の地域ではたしか4人いたと思います。しかし話はしましたけれども、今まで、こちらから行かないと、つながりがまったく無かったと思います。こちらから働きかけるしかないのでしょうか。

新任コーディネーター研修の際にその立場をきちんと指導してもらい、納得してコーディネーターを引き受けてもらいたいと思います。

教育支援センター  
所長

必ず各学校にコーディネーターがいるのですが、そこには推進会議というのがあります。年1回やっているところもあれば2回やっているところもあって、推進会議に

はそれこそコミ協の会長さんですとか学校の校長先生、担当主任さん、民生委員さん、育成協の人など学校によって違いはありますが、いろいろなメンバーが今年度の成果や課題、来年度の取組などについて議論するという集まりの会です。

たぶん来年の2月に推進会議を開催すると思いますので、ぜひそこに出席されて取組みを聞いていただければと思います。

自治協委員

4ページにスクールカウンセラーのお話がありましたけれども、新潟市ではないある小学校で保護者がカウンセリングを受けたそうです。その際に話題以外のことまで聞かれて、質問攻めにあい、二度と話をしたくないと保護者が言ってきたので、どうしようかと思われた校長先生から相談を受けたことがありました。

別の地域では、スクールカウンセラーに問題があるということで学校に呼ばれていきましたら、スクールカウンセラーがまるで家庭教育のような講義をお母さんに対してしたという話を聞きました。そこで、新潟市ではスクールカウンセラーの資質の確認等はどのようにされているかということをお聞きしたい。

もう一つ、先ほどの情報提供のなかで「自分はだめな人間だと思う」日本の高校生が72.5パーセントいる、ということが私はとてもショックです。だめな人間とってしまうというのは、自己肯定感が無いということにつながると思うのです。

道徳授業の中でディベートの形を取り入れているというお話でした。これはとてもいいことだと思っていますし、アメリカではいろんな教科に関してディベートをおこなっているのを聞いています。私は学生と話す機会があるので、自己肯定感を持っているのではないかというところを感じています。自己肯定感を持つということは学習に取り組む意欲も湧きますので、そういった意味で、自己肯定感を持たせるのにはどのような工夫が必要か、というところに力を入れていただきたいと思います。自己肯定感が無いために今、自殺という言葉をよく耳にします。いじめによる自殺。毎日のように報道されています。その辺のところまでつながっていくのではないかと不安を持っています。

教育委員会  
事務局

資質の確認ということなのですが、各学校には教育相談担当教員がいますが、この先生からは「ちょっと評判が悪い」という話は聞こえてきません。特に親御さんから「このスクールカウンセラーはだめだ」というような意見もないので、それぞれのスクールカウンセラーについての資質というところまでは、確認はしていないのが現状です。

ただ、それなりの臨床心理士の免許をお持ちの方ですので、私どもとしては自信を持って各学校に配置しているという思いがあります。

自己肯定感を高める授業につきましては、今アクティブラーニングというものを、日本国中で推奨しています。自分で課題を見つけて、そういう中で友達と協力しあいながら、または意見をぶつけ合いながら、問題を解決していくという、机上のペーパーではなくて、グループの中で意見を出しあって作業をするとか、自分の考えを出す活動をアクティブラーニングといいます。当市もそれを推奨してやっておりますので、徐々に自己肯定感が上がってくれば良いなと思っております。

自己肯定感が低いというのは日本人の特徴だということは国が分かっていること

なので、国ぐるみでそのような授業を今推奨していて、当市もそれについて各学校にやり方についての話をさせてもらっている最中です。

教育支援センター  
所長

12月14日付の学校支援課広報に、「コップの中に半分水が入っています。それをあなたはどう見ますか」という質問が掲載されていました。

その答えとして、「半分しかなくいっぱいではない」と問題視するか、「だいたまっているね、どれだけ増えているのか」を考えてみる。自己肯定感につながるのが後者のほうで、半分しかないのと問題視するのではなくて、いっぱいたまっていると思うこと。つまり今あるその人の存在そのものを肯定して、集団から認められることで自己肯定感、自己有用感が育まれるのだそうです。

自治協委員

先般、教職員の給与が県から市に移譲されるという中で、いろいろな権限を市が持てるといった新潟日報の記事を見ました。差し支えなければ、具体的な中身について、どういうものができるようになるのかということをお教え願えればと思います。

教育委員会  
事務局

新潟県が今まで県内全ての学校の教員の給与を負担していたのですが、平成29年4月から、政令市においてはその市が給与を負担するということです。

研修を行うのも人事を行うのも給与を負担するのも、教職員に関しては全ての権限が市におりてくる形になります。

具体的にどういうことをするかということですが、最終的には市議会の予算が確定しないとすべては決まらないのです。しかし、まずは少人数学級を少しでも進めたいと思っています。少なくとも小学校1、2年生で32人学級というのを目指してやっているのですが、それが少しでも上のほうに上がっていくといいなと思っています。それが一つ目です。

二つ目は、教員の数をそれぞれの学校に配当していく権限もおりてきます。それぞれの学校において課題となっていることは違います。例えば学力をアップさせたいと思っている学校もありますし、今生徒指導で困っているというようなところもありますし、うちは農業に関連するような活動をいっぱいやりたいといった学校もあると思います。それぞれの学校の課題にあった人の配置の仕方ができるようにしていきたいと考えています。今までそういうことができなかったのが、できるようになったので、少しでも学校に合ったもの、もっと言うと北区にとってどういう人の配置がいいのかということも含めて検討していきたいと思っています。そういった権限が移譲されることになります。

議 事

8 北区自治協議会教育・文化部会部会長挨拶

9 閉会